

剣道

No. 152

4・5月号

三木市剣道連盟

広報部

2011(平成23)年

5月23日(月)

発行

- 別所公春祭り共催剣道大会結果 (1・2面)
- 第34回東播少年剣道大会結果 (3・4面)
- 高校剣道部7校合同合宿 (4面)
- 県総体東播地区予選高校剣道大会(5面)
- 三木市剣道連盟審判法講習会 表彰関係 月々の便り(6面)

◎本紙は、紫雲館剣道場ホームページ

(www.eonet.ne.jp/~tkomu/siunkan/index.htm)

にも掲載中。PDFでカラー印刷できます。郵送不要の節は連絡ください。

別所公春祭り共催剣道大会

山口(自由中)、吉川勢を凌ぐ

高校チャンピオンは長田(三木北)

平成23年度、三木市にける最初の公式戦である「平成23年度別所公春祭り共催剣道大会」は5月5日(祝)、三木市民体育館を会場に行われた。

年々、小学生の参加が減る中、今年では中学・高校の剣道部員が揃って参加、底上げしてくれたおかげで、大会はかなり盛り上がった。

開会式の挨拶に立った、高橋会長は、先の京都会場での剣道昇段審査において、見事、6段(大西健自由が丘少年剣道教室室長、7段西岡伸泰、三木中央剣道教室室長)、



開会式で 会長挨拶

8段(池田公律、三木市剣道連盟指導顧問兼三木北高校剣道部顧問)にそれぞれ合格された3人の先生方の朗報を紹介した上、「生涯剣道のお手本」と称え、3人の先生方の謙虚な姿勢を絶賛した。

試合は、小学生・中学生がプログラム通りの組み合わせで、予選リーグ、決勝トーナメント戦へ。高校生は当日の抽選による組み合わせだった。

女子は参加者そのものがすくなく、盛り上がりには欠けた。

小学生4年生以下男子の部では、段トツの橋間祐仁(吉川)に、別所の生友泰蔵が食い下がり健闘した。



試合の様子(左 山口選手)

各教室の精鋭が集い、毎年熱戦が期待できる小学生男子5・6年生の部では一三二名と人数も少なく、ベスト4は吉川勢が独占、橋間祐生が石原を下し、兄弟優勝が実現した。3位の岡坂連(吉川)も姉の岡坂和奏(中学生女子)の部優勝と共に姉弟同時入賞を果たした。

中学生男子の部は、総勢32名がエントリー。実力ある3年生を中心に、好試合を展開した。ベスト8まで残っていた三木中勢(松下・上山)や、実力派の上野(自由

各部入賞者 写真

荻原(中巻)も姿を消し、ベスト4に残ったのは、山口優輝(自由中)以外はすべて吉川勢だった。その吉川勢の挑戦を退け、最後に栄冠を握ったのは山口だった。山口の旺盛な気迫と手数が勝負を決めた。

高校生男子は、三木・三木東・三木北ともほぼ同数の26名が出場。先の春の東播高校剣道大会の個人戦で健闘した、三木東吉村哲平、三木北長田知晃らが順調に勝ち上がった。結果は1年生ながら優勝戦まで勝ち残った三木高、堀翔太郎を3年生の長田が下し、貫録を見せた。なお1年生ながら3位に食い込んだ三木高宮崎裕季と堀翔太郎の健闘が光る。

入賞者と結果は以下のとおり。



小学4年以下 男子の部



小学4年以下 女子の部

部門	優勝	準優勝	3位	3位
小学4年以下 女子	なるせさや 成瀬沙弥 (3年・別所)	かわらにな 加村仁奈 (4年・中央)	ひだかみお 日高光桜 (3年・中央)	やまだまみ 山田真実 (3年・吉川)
小学4年生以下 男子	はしまゆひと 橋間祐仁 (3年・吉川)	いしくとも 生友泰蔵 (4年・別所)	いしだまひろ 石田真大 (4年・自由が丘)	なかもとしな 中本紫那 3年生(別所)
小学5・6年 女子	さんとうようこ 三藤暢子 (6年・吉川)	ふくだともよ 福田知世 (6年・自由が丘)	たけうちあいか 竹内藍茄 (6年・緑が丘)	—
小学5・6年 男子	はしま ゆうせい 橋間 祐生 (6年・吉川)	いしはら そういちろう 石原 颯一朗 (6年・吉川)	おかさか れん 岡坂 蓮 (5年・吉川)	いけだ せいよし 池田 聖彬 (6年・吉川)
中学生 女子	おかさか わかな 岡坂 和奏 (吉川1年)	うちむら ともみ 内村 友美 (自由丘1年)	まえやま ありき 前山 有彩 (自由丘1年)	—
中学生 男子	やまぐち ゆうき 山口 優輝 初段 (自由中3年)	かわさき しょうへい 川崎 将平 (吉川2年)	いしだ たかし 石田 諭史 初段 (吉川3年)	はしま なすく 橋間 祐久 (吉川2年)
高校生 女子	はまな さやか 濱名 さやか 二段 (三木高3年)	なかたに りか 中谷 梨香 二段 (三木高3年)	いのうえ まゆこ 井上 真結子 二段 (三木高3年)	おおにし まお 大西 真央 二段 (三木高3年)
高校生 男子	ながた ともあき 長田 知晃 二段 (三木北3年)	ほり しょうたろう 堀 翔太郎 二段 (三木高1年)	みやざき ゆうき 宮崎 裕季 二段 (三木高1年)	よしむら てるひら 吉村 哲平 二段 (三木東3年)



高校生 男子の部



高校生 女子の部



小学5・6年 男子の部



小学5・6年 女子の部



中学生 男子の部



中学生 女子の部

東西対抗戦結果

東軍 9-5 西軍 (4分け) 東軍圧勝!

第34回東播少年剣道大会結果

花開く吉川剣道 小・中共男子団体で銀

平成23年3月27日(日)於小野市総合体育館アルゴ

未曾有の東北・関東大震災で
国中が打ちひしがれている3月末
の最後の日曜日、第34回を数え
る「東播少年剣道大会」が、主
加西市剣道連盟、会場小野市総合
体育館「アルゴ」で行われ、東播
各地から122チーム、参加選手600
余名が参加した。

会場当番の加西市で大会が行わ
れなかったのは、他の行事と重な
って加西市内の体育館がふさがつ
ていた為だが、その窮状を見かね
た小野市が会場提供に応じ、お
かげで本大会が予定通り実現した。

我が三木市からは、市内各教室
から、小学生男子団体7チーム、
中学生男子団体4チーム計11チ
ームが出場したが、小・中共に女子
のチームは1チームの出場もな
かった。

大会に先立って、今度の「東
北・関東大震災」で亡くなられた
方々に対して、大会参加者全員で
黙祷が行われた。また、会場では、
本大会の名において、義捐金の募
集が大会に並行して行われた。

試合に先立って挙行された開会
式は型どおり進行したが、挨拶に
立った竹本伸夫大会会長、三宅征

夫東播地区協議会顧問、平野武彦
東播地区協会長らが口々に今回の
大震災に言及し、哀悼、慰霊の気
持ちを述べられた。選手宣誓は加
西市の3つの教室(加西・九会・北
条)の代表が揃って行った。

試合は6コートで、10時15分
から一斉に開始された。三木のチ
ームが最も沢山出場している小学
生男子の部では、1と4のコートで
試合が展開し、第2試合場でいき
なり「志染スポーツ少年団剣道
部」と、「自由が丘少年剣道教
室」がぶつかるといふ、つかない
組み合わせもあった。この三木同
士の対決は、僅差で自由が丘が上
がったが、すぐに優勝候補ナンバ
ー1の「印南剣道場」に粉砕され、
姿を消した。その他の教室は、ほ
んどが緒戦敗退、みるべき結果
を出したチームはいなかった。

唯一しぶとく次々と挑んでくる
強敵をなぎ倒しながら、ついに決
勝進出まで駆け上がったのが、

「吉川剣道少年団」チームだった。
吉川チームは緒戦、高砂の「阿弥
陀剣友会」を4-0で一蹴。続く
「小野市少年剣道教室柳心館」を

3-0で下し、古豪「あけぼの少
年剣友会」(明石)を3-1で下し



銀メダルを手にした吉川チームの選手たち

て立ちほだかった「尾上剣友会」
(加古川)を、なんと5-0で一方
的に破った。

この第1試合場は手強いチ
ームが固まっているコートだった。隙
が無く、名門「明武館」(明石)を
問題なく破った「高砂剣道教室剣
誠会」や試合巧者が揃っている
「春風館」(高砂)、過去優勝経験
のある「加古川警察少年剣道会」
などがひしめく。

果たして、これまで一方的だった試合も、ここまでくると、手に汗握る伯仲した試合に変わった。

吉川チームの4回戦の相手は、

「春風館」「剣誠会」を下し、さらに上を窺う「加古川警察少年剣道会」。

先鋒岡坂蓮(4年)は、加古川水田にメンを奪われ一本負け。次鋒石原(5年)もメンを先取しながら、相手齋藤(6年)にメ・コテ

を取り返され、はや王手。しかし、ここからが吉川の粘りだった。中堅で女子の岡坂和奏(6年)が相手

水田にコテの一本勝ちながら1勝を挙げ、副将三藤暢子(5年)がメンを連取するという大殊勲。最後

は大將の浅井が、加古川の大將大西隼平を見事なコテで沈め、一本勝ち。3勝2敗で、この強敵を退けた。

こうしてベスト4に残った吉川チームは、第3試合場の勝ち残り、「播磨町少年剣道クラブ」と準決勝戦を戦うことになった。このチームは、本大会に於いて優勝2回、準優勝2回の実績を残している実力チームだ。先鋒岡坂が2本負け

したのを、中堅岡坂姉が、これまで見事なメンの連取で取り返し、あとは全て引き分けというまさに

相拮抗した好試合だった。結局は代表戦となり、吉川大將浅井優輔がチームの期待に応えコテ一本に切って取り、代表戦をものにした。

さあ、いよいよ決勝戦である。

相手は強豪中の強豪にして、昨年度優勝の「印南剣道場」だ。勝てば念願の初優勝である。決勝戦が始まった。吉川チームもよく食いが下がったが、足を使った印南の壁は厚く、中堅岡坂の一本勝ちのみで1-4で完敗した。

しかし、女子2人を含む吉川チームはよく健闘した。週2回の稽古にも拘わらず、手島監督の指導によく従い、手島監督のいう手島流の基本稽古を忠実に積み重ねた結果、本日の栄光をつかんだ。

なお、中学生のチーム(3人制も次々と相手を退け、3回戦で三木市のライバル、自由が丘チームを4回戦では高砂の入賞常連チーム「春風館」を破って、これまた優勝戦に駒を進めた。最後には力尽き、昨年の覇者「大蔵剣友会」(明石)に勝ちを譲ったが、堂々の準優勝。

吉川にとっては大変誇らしい、小・中同時銀メダルだった。

【高校剣道部】

ホースランドで 7校剣道部が合宿

3月24日～26日

6年目になる高校剣道部の「春合宿」、今年も例年行っている三木のホースランドパークの研修棟を宿泊所として、近隣の高校7校(生徒約50名、顧問教師10名)が集まり、2泊3日の濃密な稽古会を催した。

参加したのは、三田祥雲館・社・篠山鳳鳴・三木北・柏原・小野工業・三木東の7校。いずれも三木東高校剣道部顧問武中先生の稽古仲間の先生方が指導される学校だ。

24日から始まった合宿稽古会は、初日9時から練習開始。14時、19時と3部練習。夜の稽古には、地元三木市剣道連盟から高橋会長、

安柄指導部長が特別参加。各校のOBも多数参加して盛り上がった。翌25日は、基本を中心に実戦的な内容も含め、9時～、14時～の2部練習をした。

最終日の26日は、場所を三木東高校体育館に移し、合宿参加校以外に、神戸・東播・丹波などからも加わって、計20校(男女約200名)が集まり、終日練習試合を行った。

この時期は、年度の入替わりで、学校では先生方の会議が多く、顧問が付きっきりで指導することが難しい時期でもある。複数校が参加することにより、何名かの顧問が生徒たちを指導できるという利点がある。各地区とも春の大会を一か月後に控えており、生徒たちにとっては、充実した合宿、練習ができたようだ。

世話に当たった、三木東高校の武中先生は、「もつと早く、皆様に知らせておけば地元の剣士たちも駆けつけてくれただろうに。」と反省の弁しきり。

**平成23年度 東播高等学校春季剣道大会 兼
県総体東播地区予選大会結果(4月29・30日:東播磨高校)**

校名		三木	三木北	三木東
4月 29日 (金)	男子個人戦 出場者・結果 ベスト16以上が 県大会出場	衣笠 初戦敗退 寺尾 初戦敗退 丸山 初戦敗退	藤本 2回戦敗退 木田 3回戦敗退 長田 ベスト8	江尻 初戦敗退 谷口 2回戦敗退 吉村 ベスト16
	女子団体戦 出場者・結果 出場校すべてが 県大会出場	予選リーグ 三木0-3高砂 三木0-3加古川西 三木2-2小野 ※リーグ4位	不参加	不参加
4月 30日 (土)	女子個人戦 出場者・結果 ベスト16以上が県 大会出場	井上 初戦敗退 中谷 初戦敗退 濱名 ベスト8	不参加	胡谷 初戦敗退
	男子団体戦 出場者・結果 出場校すべてが 県大会出場	予選リーグ 三木1-3三木東 三木0-2明石南 ※リーグ3位	予選リーグ 三木北1-1小野 三木北2-1明石西 三木北2-0明石北 ※リーグ2位	予選リーグ 三木東3-1三木 三木東0-3明石南 ※リーグ2位

※印 (赤字) : 県大会出場

【個人戦】女子は男子に比べると参加人数が2/3程度と少ないが、レベルは非常に高く、複数の選手が県大会でも上位を狙える力をもっている。その中でベスト8まで進出した三木高の濱名は、3大会連続ベスト16以上の結果を残しており、県大会でも期待できる選手である。男子は三木北高の長田、三木東の吉村ともに明石高の選手に接戦の未敗れたが、その選手が2、3位に入賞しており、県大会までさらにレベルアップすれば上位進出も可能である。

【団体戦】昨年度より力をつけてきた三木北高と三木東高の男子に期待(3位以上)したが、予選リーグで三木北高は小野高に僅差で破れ(本数)、三木東高も本来の力を出せずに明石南高に敗れ、上位進出はならなかった。女子は近年参加校が少なく、3年前からすべての学校が県大会に出場できるようになっていたが、男子も今年度(秋、来年度以降は未定)はオープン参加となるため、県大会での活躍に期待したい。(武中敏彦)

審判法講習会 四十一名が受講 (加佐コミスポ)

平成23年4月3日、神澤正輝
教士七段による懇切丁寧な講習
会が開かれました。

早朝、28名の中堅会員、三
木高校と三木東高校生13名が指
導監督と共に集まる中、開会予
定時刻を早めて、講習会は8時



旗の上げ方を丁寧に指導する神澤正輝教士7段

45分に始まりました。

昨日とは打って変わって烈しい
気温低下にも関わらず、福本修二
範士の著書「ゼロから分かる審判
法」を基に行われたはじめの講義
に耳を傾け、その後の実技講習で
も、初心者が十分に理解できる言
葉で審判の基礎的な操作方法、所
作そして有効打突や反則の見極め
方の講義が続ききました。審判方
法の再確認だけでなく、実技の
向上にも大いに資する会を持てた
ことでしよう。

審判規則に精通した高段者から
も、その微に入り細に渡る判定の
大切さを説明される言語力に惜し
みない拍手が送られました。

(報告 森下哲次)

田中・檜皮両氏に 教育功労者表彰

平成22年度三木市

スポーツ表彰式

毎年、三木市民の中で、スポーツ
関係で顕著な成績を収めた選手や
団体に贈られる「三木市スポーツ
賞表彰式」が平成22年度分とし
て、2月26日(土)、13時30
分より三木市立教育センターで行
われ、市内の各スポーツ団体代表
者を始め関係の来賓列席の中、

28名の個人、17の団体が表彰を
受けた。

今年は剣道関係はなかったが、
全国・近畿などで顕著な成績を残
した優秀選手賞に14名、県大会
上位入賞の奨励賞24名、また、
団体でも優秀団体賞に輝いたのが
関西国際大学硬式野球部など3団
体、兵庫県大会の上位入賞の奨励
賞を受けた志染の少年サッカーな
どの団体が14団体だった。

同時に行われた、それぞれのス
ポーツ競技で永年指導に当たるな
どの功績があった方々に贈られる
「三木市教育功労者表彰」で、剣
道からも田中司・檜皮隆夫両氏が
選ばれ、他の種目の方々17名と
共に表彰を受けた。



表彰された田中 司氏(右)と檜
皮隆夫氏(左)

「月々の便り」

晩春悲歌

丹野骨平(こっぺい)

みちのく なみ

陸奥の地震潮津波

引く波一村 修羅落し

みちのく なみ

陸奥の地震潮津波

余寒の続く 避難小屋

みちのく なみ

陸奥の地震潮津波

乳足らずして 眠る嬰(えい)

みちのく なみ

陸奥の地震潮津波

寒くないかと 肩を寄す

みちのく なみ

陸奥の地震潮津波

天気予報の 気にかかり

*修羅落し：伐採された材木を、丸太
を並べた上を滑らせて、谷間にのぞむ
ところまで運び出し、いかだに組むた
めに谷川に落とすこと
*嬰：みどりこ、ちのみこ